

〔生薬学雑誌, 32, 136 (1978)〕

**Pharmacognostical Studies on Mai-Men-Tung (Ⅲ)\*  
On Mai-Men-Tung Originated from *Ophiopogon***

TOSHIHIRO TANAKA, MIZUO MIZUNO, YUKIO NORO\*\*, KŌITI KIMURA\*\*\*

麦門冬の生薬学的研究 (第3報)\* *Ophiopogon* を基原とする麦門冬について

田中俊弘, 水野瑞夫, 野呂征男\*\*, 木村康一\*\*\*

市場品麦門冬には *Ophiopogon* ジャノヒゲ属を基原植物とするものと *Liriope* ヤブラン属を基原植物とするものが知られている。そこで、市場品麦門冬のうち *Ophiopogon* を基原植物とする麦門冬について研究を行った。河内長野市では *O. japonicus* ジャノヒゲを栽培し麦門冬が生産が行われており、中国浙江省と江蘇省でも *Ophiopogon* sp. を栽培し麦門冬が生産が行われている。浙江省杭州からこの植物を入手したが、文献によっては *O. ohwii* ナガバジャノヒゲまたは *O. japonicus* と発表されている。しかし形態的に検討したところ、いずれとも異なっており *O. chekiangensis* とすべきであるという見解に達した。その他日本産 *Ophiopogon* spp. および東南アジア各地の市場品を加えて比較解剖を行った。根の内部構造上の特徴に基づいて Table 1 に示す検索表を作製し相互に区別することができた。そこで各地の市場品についても比較をしたところ、基原植物として *O. japonicus* (日本産, 名古屋市場品) の他に *O. chekiangensis* (中国産, 香港, Penang, Bangkok 市場品) を確認することができた。

Table 1 根の解剖学的特徴に基づく *Ophiopogon* spp. の検索表

A 1	根に油滴と柱状晶を認める	
B 1	根被が発達する	
C 1	根被が著しく発達する .....	<i>O. chekiangensis</i>
C 2	根被の発達は前種に劣る .....	<i>O. japonicus</i>
B 2	根毛が発達, 内皮の外側の細胞の壁が肥厚する	
C 1	内皮の外側の細胞の壁は均一にU字形に肥厚する .....	<i>O. ohwii</i>
C 2	内皮の外側の細胞の壁はU字形に肥厚するが, 外側に行くに従い細胞壁が薄くなる傾向がある .....	<i>O. japonicus</i> var. <i>caespitosus</i>
A 2	根に油滴, 柱状晶を認めない	
B 1	外皮の細胞の外側の壁の内側に乳頭状の突起がある .....	<i>O. Jaburan</i>
B 2	外皮の細胞の外側の壁の内側に乳頭状の突起を認めない .....	<i>O. planiscapus</i>

\* 第2報: 薬学雑誌, 64, 173 (1944).

\*\* 名城大学薬学部

\*\*\* 東日本学園大学